

平成 27 年度第 2 回  
嬉野地区新高校  
設置準備委員会  
(資料)

平成 27 年 7 月 28 日  
佐賀県教育委員会

# 目次

	頁
資料 1	新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (第1次)第1回新高校設置準備委員会報告まとめ . . . . . 1
資料 2	めざす学校像 . . . . . 3
資料 3	鹿島・藤津地区の学科の状況 . . . . . 7
資料 4	新高校の学科構成について . . . . . 13
資料 5	新高校設置準備委員会設置要領 . . . . . 22
資料 6	嬉野地区新高校設置に向けた検討体制 . . . . . 24
資料 7	嬉野地区新高校設置準備委員会委員構成 . . . . . 25

資料1 新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画（第1次）

第1回新高校設置準備委員会報告まとめ

1 開催日時・場所等

地区及び再編対象校	開催日時・場所	委員
杵島地区 ・ 白石高校 ・ 杵島商業高校	平成27年 5月26日(火) 10時～11時25分 白石高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 12人 県教育委員会関係委員 8人
伊万里地区 ・ 伊万里農林高校 ・ 伊万里商業高校	平成27年 5月27日(水) 15時30分～17時 伊万里農林高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 7人 県教育委員会関係委員 8人
唐津地区 ・ 厳木高校	平成27年 5月28日(木) 9時30分～11時 厳木高校 同窓会館	学校関係委員 3人 地域関係委員 5人 県教育委員会関係委員 9人
嬉野地区 ・ 塩田工業高校 ・ 嬉野高校	平成27年 5月28日(木) 15時～16時30分 塩田工業高校 視聴覚室	学校関係委員 4人 地域関係委員 10人 県教育委員会関係委員 8人
鹿島地区 ・ 鹿島高校 ・ 鹿島実業高校	平成27年 6月1日(月) 15時～16時35分 鹿島高校 同窓会館	学校関係委員 4人 地域関係委員 11人 県教育委員会関係委員 8人

2 主な意見等

地区	主な意見等
杵島地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校舎制は初めての取組でイメージがわきにくいだが、先進的な事例も踏まえた具体的な提案をお願いしたい。</li> <li>・ 新高校に関する議論と並行して、現在の杵島商業高校、白石高校の生徒の今後に関して、意見を言う場を作ってほしい。</li> <li>・ 全国と比べて、佐賀県は普通科の比率が低い。グローバル化や産業技術の高度化への対応において、基礎基本の学力の重要性を踏まえて新高校を作ってほしい。</li> <li>・ 今までにない夢のある学校、生徒が集まるような学校をイメージしてほしい。</li> </ul>
伊万里地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両校を合わせれば、他に類を見ない、おもしろい学校になると思う。卒業生がなるべく地元に残るような実業高校ができればと思う。</li> <li>・ 単位のとり方について、商業科の生徒が農業科の事も学べるようなカリキュラム編成ができれば、(新高校としての)個性が出せると思う。</li> <li>・ 人材育成については、地域ニーズを分析することが必要である。</li> <li>・ 進学する高校を選択するときに、部活動で選ぶ子どももいる。再編によって部活動の選択幅がひろがるのではないかな。</li> </ul>

地区	主な意見等
唐津地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校は卒業後の進路保障が大事である。太良高校のようにキャリア教育の推進に重点的に取り組む必要がある。</li> <li>・ 地域に根ざした学校に、地域住民がどういった手伝いができるか、その方向性を検討する必要がある。</li> <li>・ 発達障害の生徒を指導できる教員の育成も重要である。</li> <li>・ 参考とするために、既に取り組を行っている太良高校を視察させてもらいたい。</li> </ul>
嬉野地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再編後、更に定員が1クラス減ることを踏まえたビジョンが必要だ。</li> <li>・ 再編後の学校を新しい学校としてみてもらわなければならない。校舎制により、足して2で割るのではなく、両校が合わさることでの相乗効果を求めている。</li> <li>・ 例えば、工業系列を持つ校舎制の総合学科で、部活動はそれぞれの校舎で分けて実施するとし、市はこれに対して支援を行うというような構想を作っていければと思う。</li> <li>・ 地域創生の時代であり、地域の特性を生かし、地域人材を育成できればと思う。</li> </ul>
鹿島地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新高校の1クラスの定員を、少人数クラス編制にすることは考えられないか。</li> <li>・ 両校の目標である進学と就職両面の充実をいかに図っていくかが最重要事項である。その上で学校としての整合性を保たなければならない</li> <li>・ 「当面、校舎制」とあるが、できるだけ早く1つの校舎で学ばせてほしい。人間教育にもつながる。</li> <li>・ (高校受検で)学科ごとに第1、第2希望と選べるならば、生徒の選択の幅が広がる。部活動も、質・量ともに充実し、魅力となる。</li> </ul>

資料2 めざす学校像

1 第1回嬉野地区新高校設置準備委員会（平成27年5月28日）での主な意見の要約

めざす学校像について

現在ある学校の特色を生かしながら、充実した人材育成  
 未来の工業人を育成  
 嬉野市にずっと住んでいただける人  
 多様な進路保障や学科の連携  
 地域貢献  
 足して2で割るのではなく、相乗効果が必要  
 時代の流れに合わせていく何かを付けた学校

<ポイント整理>

- |               |          |
|---------------|----------|
| ・現在の両校の特性を生かす | ・地域との関わり |
| ・学科相互の関わり     | ・時代の流れ   |

2 両校の比較

(1) 教育目標等について

(両校とも『H27 学校要覧』による。下線部は共通項。波線部は特徴のある部分。)

塩田工業高等学校	嬉野高等学校
校訓 「希望 錬磨 誠実」 教育目標 校訓を教育方針とし、 <u>「ものづくりを通じた人づくり」</u> 教育を行い、 <u>工業技術人として必要な学ぶ力を育み、心身ともに健全で社会に貢献できる工業技術者の育成を目指す。</u>	校訓 「立志躍動」 教育目標 ・ <u>一人ひとりの個性の伸長と豊かな人間性の涵養を図る。</u> ・ <u>社会の変化に主体的に対応できる幅広い教養と専門知識・技能の修得を図る。</u> ・ <u>社会に貢献できる心身共に健全で社会性豊かな人材の育成を図る。</u> ・ <u>校訓の精神を生かし、志に向かって若き情熱と行動力を傾け、その達成に邁進する人材の育成を図る。</u>

(2) 長期経営計画における学校経営ビジョンについて

(両校とも『H27 学校要覧』による。下線部は共通項。波線部は特徴のある部分。)

【塩田工業高校】

- 1 「希望ある塩工」  
 学習意欲を向上し、確かな学力を身に付け、希望に膨らむ生徒を育成する。
- 2 「錬磨する塩工」  
 資格取得と「ものづくり」を通じ、心身ともに錬磨された生徒を育成する。
- 3 「誠実なる塩工」  
 基本的な生活・学習習慣を身に付け、社会性のある誠実な生徒を育成する。
- 4 「連携する塩工」  
地域社会と連携・協働し、開かれた明るい学校、信頼される学校をつくる。

【嬉野高校】

- ア 総合学科としての特色を生かし、一人ひとりの進路希望を達成する。
- イ 基礎的・基本的知識・技能及び挨拶、礼儀、マナー等の社会性を確実に習得させ、社会に必要とされる人材を育成する。
- ウ 地域貢献を主眼においた存在感のある取り組みを展開して開かれた学校づくりを目指す。
- エ 介護福祉士養成施設としての指導の充実を図る。

(3) キーワードの整理

	塩田工業高校	嬉野高校
人材面	希望 錬磨 誠実	立志躍動
	(校訓を教育方針とする)	(校訓の精神)
	社会性	社会性
		個性の伸長
		豊かな人間性
心身面	心身ともに健全	心身共に健全
知識面	工業技術人として必要な学ぶ力	幅広い教養
	確かな学力	
産業面	工業技術者の育成	介護福祉士養成
	ものづくり	
学校面	地域社会と連携・協働	地域貢献
	開かれた明るい学校	開かれた学校
		総合学科としての特色

キーワードからみた両校の共通点と特徴

< 共通点 >

【両校の校訓】

希望、錬磨、誠実、立志躍動  
校訓を基本方針・精神とする

【人材面、心身面】

社会性、心身ともに健全

【地域・社会との関係】

地域社会と連携・協働、地域貢献  
開かれた学校

< 特徴 >

【工業科としての特徴】

工業技術人、ものづくり

【総合学科としての特徴】

個性の伸長、幅広い教養、  
介護福祉士養成

### 3 めざす学校像（案）

#### 案 1

##### 地域との連携による学校づくり

地域の学校や人々との関わりを深め、学校の特色を活かした連携を図り地域に根ざした信頼される学校をめざす

##### 生徒が主体となった学校づくり

主体的に学校行事に関わり、心身ともに健全で、自ら考え自ら行動できる姿勢を育て、活気のある学校をめざす。

##### 学科の特色を生かした学校づくり

学科の特色を生かした多様な生徒の進路に対応できる体制づくりを促進し、時代の変化に柔軟に対応できる確かな力を身につけた人材を育成し、特定の分野で実績 NO.1 をめざす。

#### 案 2

- 1 一人ひとりの個性をのばし、進路実現ができる学校
- 2 学習により得た知識や技能をいかし、社会に貢献できる学校
- 3 豊かな心を育てて、地域に愛され、地域とともに歩む学校

#### 案 3

心身ともに健全で、基礎的かつ専門的な知識や技能によって、時代の変化に柔軟に対応して社会へ貢献できる人材を育成し、郷土愛に溢れ、地域との堅固な信頼関係で結ばれている学校。

【参考】他県の高等学校の事例

静岡県立伊豆総合高等学校

- 1 沿革 H22.4 静岡県立修善寺工業高等学校と静岡県立大仁高等学校が統合。
- 2 学科と募集定員

学 科		H27 募集定員
工業科	機械工学科	40 名
	電気電子工学科	40 名
	建築工学科	40 名
総合学科 (文化国際系列)(情報理数系列) (看護健康系列)(ビジネス教養系列)		120 名
合計 240 名 6 学級 / 学年		

3 教育目標等

<教育目標>

- (1) 生徒一人ひとりの個性を大切にし、多様な教育活動を通して、その可能性の開発を図ります。
- (2) 地域社会の産業・文化を理解し、その発展に貢献できる人材を育成します。

<教育方針>

- (1) 基礎・基本を重視するとともに、専門的な知識・技術の習得を図ります。
- (2) 心身ともに健全で情操豊かな人間を育成します。
- (3) 自主・自立の精神及び責任を重んじる態度を養います。
- (4) 体験的活動を重視し、社会の変化に柔軟に対応できる能力を育成します。
- (5) ガイダンス機能を充実するとともに、地元企業との連携を図り、望ましい職業観・勤労観を育成します。

鹿児島県立霧島高等学校

- 1 沿革 H20.4 鹿児島県立牧園高等学校と鹿児島県立栗野工業高等学校が統合。
- 2 学科と募集定員

学 科		H27 募集定員
工業科	機械科	40 名
総合学科 (上級学校進学系列)(情報会計系列) (観光ビジネス系列)(文化芸術系列) (生活科学系列)		120 名
合計 160 名 4 学級 / 学年		

3 校訓等

校訓 「自律・敬愛・明哲」

スクールモットー 「磨こう個性・拓こう未来を！」

目指す学校像

1. 機械科と総合学科の特色を生かし、「生徒の未来を拓く」学校
2. 確かな学力の定着に努め、多様な進路実現を図る学校
3. 豊かな心を育て、人に優しくあいさつの絶えない学校
4. 地域に学び、地域に信頼され、地域に貢献する学校
5. 知・徳・体の調和がとれ、意欲的に自己実現をめざす学校



資料3 鹿島・藤津地区の学科の状況

(1) 配置

鹿島・藤津地区の学科及び募集定員（640人 16学級規模）

普通科 280人（7学級規模）

（鹿島高校 200人、太良高校 80人）

専門学科 240人（6学級規模）

（工業科：塩田工業高校 120人、商業科：鹿島実業高校 80人、家庭科：鹿島実業高校 40人）

総合学科 120人（3学級規模）

（総合学科：嬉野高校 120人）

【工業科、総合学科の全県配置】



## (2) 鹿島・藤津地区の高校別志願状況

地区	学校名	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
鹿島 藤津 地区	鹿島	1.24	1.22	1.12	1.14	1.06	1.01	0.99	1.04	1.04	1.07	1.11	1.10	1.06	1.00	0.98	1.00	0.95	0.93
	太良	0.36	0.34	0.47	0.51	0.58	0.98	0.75	0.85	1.20	0.74	0.74	1.14	0.76	0.75	0.89	0.66	0.84	1.15
	塩田工業	0.87	1.02	1.20	0.71	0.71	0.90	0.71	0.81	1.00	0.74	0.74	0.99	1.00	1.03	1.16	1.00	1.02	1.04
	鹿島実業	1.75	1.60	1.42	1.44	1.49	1.17	1.38	1.33	0.94	1.35	1.30	0.92	1.29	1.22	1.11	1.13	1.03	0.81
	嬉野	0.73	0.84	1.05	1.00	1.09	1.20	1.20	1.13	1.25	1.01	1.08	1.23	0.97	0.86	0.90	0.76	0.78	0.90
西部学区計		1.07	1.07	1.10	1.03	1.03	1.07	1.08	1.08	1.09	1.07	1.08	1.13	1.07	1.06	1.05	1.02	1.01	1.05

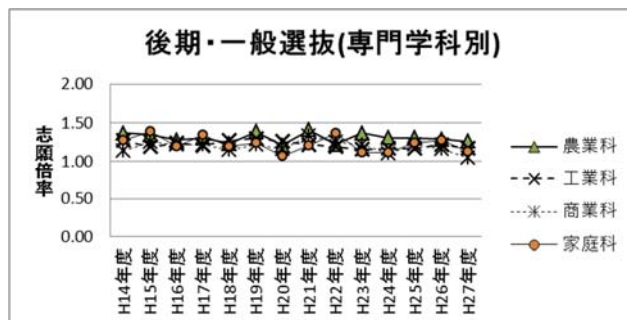
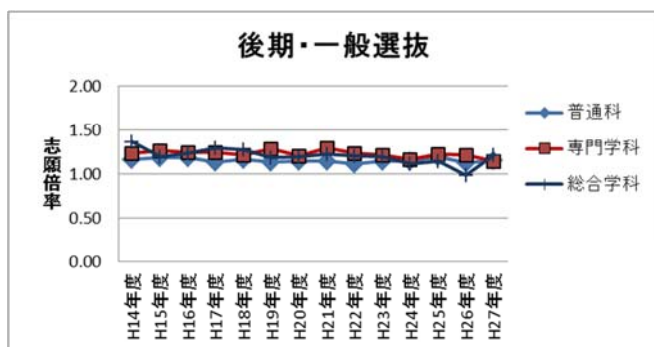
※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

### 【参考1 県全体の学科別志願状況】

後期・一般	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
普通科	1.11	1.14	1.14	1.19	1.12	1.15
専門学科	1.23	1.21	1.16	1.22	1.21	1.14
農業科	1.22	1.37	1.31	1.31	1.29	1.26
工業科	1.19	1.16	1.17	1.17	1.22	1.17
商業科	1.25	1.22	1.10	1.22	1.16	1.05
家庭科	1.37	1.11	1.11	1.24	1.27	1.13
総合学科	1.20	1.19	1.11	1.14	0.98	1.21
県立全体	1.16	1.17	1.15	1.20	1.15	1.15

理数科及び芸術科は普通科に含む。



### 【参考2 工業科の小学科別志願状況】

大学科	小学科	H22入学生			H23入学生			H24入学生			H25入学生			H26入学生			H27入学生		
		9月	11月	後期	9月	11月	後期	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般	9月	11月	一般
工業  <<り募集 はその 他に 含む		1.23	1.22	1.19	1.11	1.10	1.16	1.19	1.20	1.17	1.18	1.14	1.17	1.25	1.21	1.22	1.17	1.17	1.17
	機械系	1.65	1.45	1.12	1.46	1.25	1.12	1.41	1.35	1.13	1.59	1.48	1.32	1.52	1.40	1.25	1.35	1.33	1.27
	電気系	1.05	0.97	1.29	1.00	1.03	1.41	1.10	1.04	1.04	0.94	0.98	1.12	1.03	0.98	1.06	0.91	0.89	1.02
	電子・情報系	0.88	1.07	1.46	0.73	0.72	1.26	0.85	1.06	1.26	0.81	0.86	1.17	1.33	1.27	1.45	1.13	1.24	1.26
	建築系	0.64	0.66	1.04	0.81	0.91	1.35	1.11	1.18	1.17	1.27	1.09	1.08	1.31	1.22	1.24	1.28	1.20	1.12
	土木系	0.96	1.03	0.94	0.85	1.08	1.03	1.20	1.33	1.42	1.08	1.11	1.21	0.88	1.11	1.26	1.08	1.13	1.14
	その他	1.02	1.13	1.24	0.80	0.83	0.95	1.45	1.33	1.37	0.86	0.98	0.86	0.99	1.09	1.14	1.14	1.19	1.40

※網掛けは1.00倍未満

※後期(または一般)倍率は、志願変更後の倍率である。

(3) 鹿島・藤津地区の中学生の進路状況

鹿島・藤津地区の中学生の進路状況を分析すると、約8割が県内公立高校に進学しており、普通科と専門学科がほぼ4割ずつである。地域としては約7割の生徒が、地元である旧西部学区へ進学している。

鹿島・藤津地区 中卒者進路	全日制			定時制 ・ 通信制	高専 ・ 特別 支援	就職等 左記 以外	卒業 者数
	県内 公立	県内 私立	県外 公私立				
平成23年 3月卒	615	56	15	4	13	15	718
	85.7	7.8	2.1	0.6	1.8	2.1	
平成24年 3月卒	620	73	17	6	11	12	739
	83.9	9.9	2.3	0.8	1.5	1.6	
平成25年 3月卒	638	76	10	10	7	23	764
	83.5	9.9	1.3	1.3	0.9	3.0	
平成26年 3月卒	604	60	22	3	9	17	715
	84.5	8.4	3.1	0.4	1.3	2.4	
平成27年 3月卒	586	51	19	3	7	17	683
	85.8	7.5	2.8	0.4	1.0	2.5	
5年集計	3,063	316	83	26	47	84	3,619
	84.6	8.7	2.3	0.7	1.3	2.3	

塩田工業高校及び嬉野高校への通学状況

ほとんどが、地元からの入学者である。

単位：%

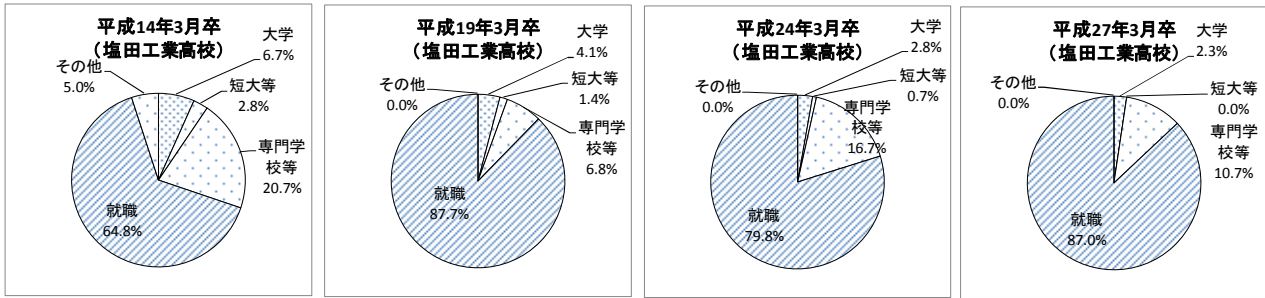
	旧東部	旧中部	旧北部	旧西部	県外等	
					うち嬉野市	
塩田工業高校	0.0	1.4	0.1	98.2	29.8	0.3
嬉野高校	0.0	0.2	0.0	99.3	54.0	0.7

注)平成23年～平成27年度の高校1年在籍者の出身中学校を基に、旧学区ごとの割合を示す。(各年度5月1日現在)

#### (4) 塩田工業高校と嬉野高校の高校卒業後の進路状況

##### 工業科

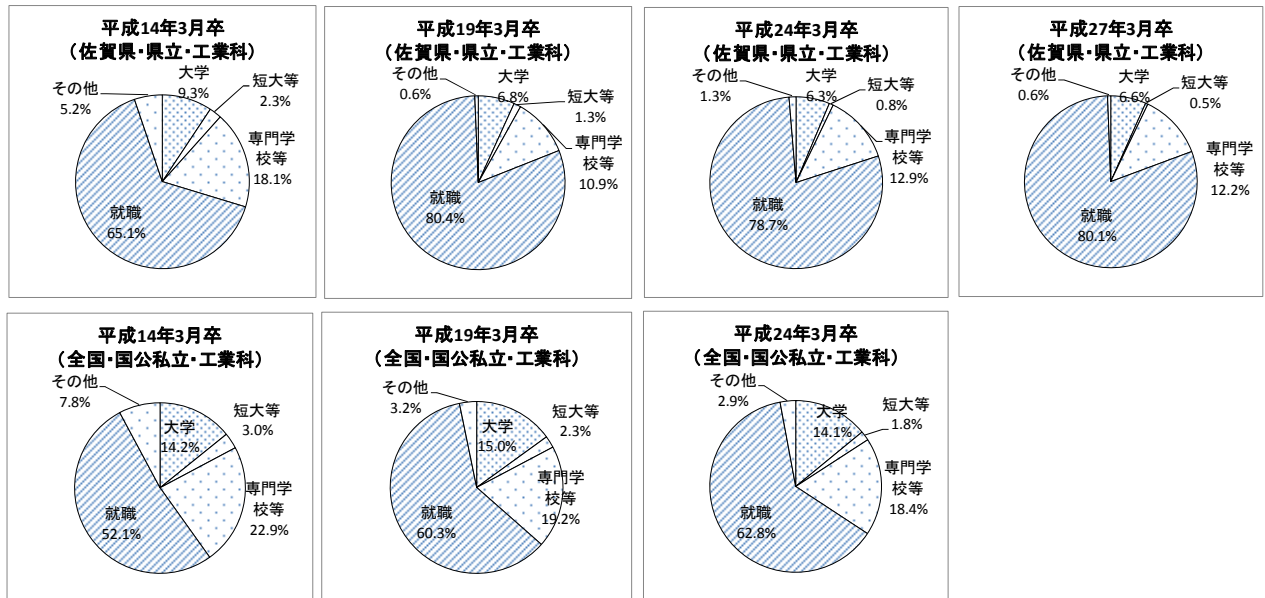
##### 【塩田工業高校卒業後の進路状況】



##### 【参考 本県及び全国の工業科卒業後の進路状況】

上段：佐賀県・県立・工業科

下段：全国・国公立・工業科



##### < 主な進学先 >

(私立) 福岡大学、九州産業大学、西九州大学

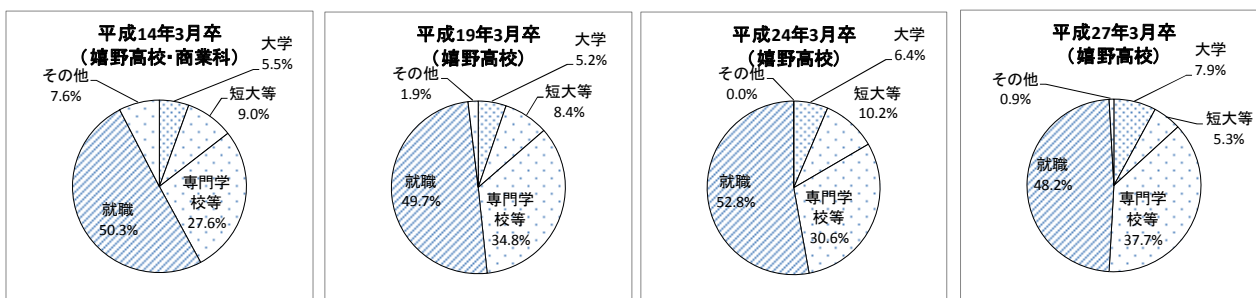
(専修学校等) 佐賀コンピュータ専門学校、九州国際情報ビジネス専門学校、緑生館、鹿島看護学校

##### < 主な就職先 >

日産自動車、JFE スチール、トヨタ自動車、豊田鉄工、アイシン化工、ジェイテクト、西島製作所、ダイハツ工業、マツダ、新日鐵住金八幡製鐵所、九州製鋼、九電工、佐川急便九州支社、フランソア、東亜工機、友朋会、森鉄工、祐徳薬品工業、九州住電精密、ジェイエイビバレッジ佐賀、鹿島機械工業、中山鉄工所、佐賀シール工業、不二コンクリート工業、デリカフレンズ佐賀工場、佐賀県農業協同組合、名村造船所、塩田環境開発、友桝飲料、織田病院、戸上デンソー、五光建設、祐徳自動車、宮園電工、エスティ工業、キタック、ソクト、警視庁、陸上自衛隊、航空自衛隊

## 総合学科

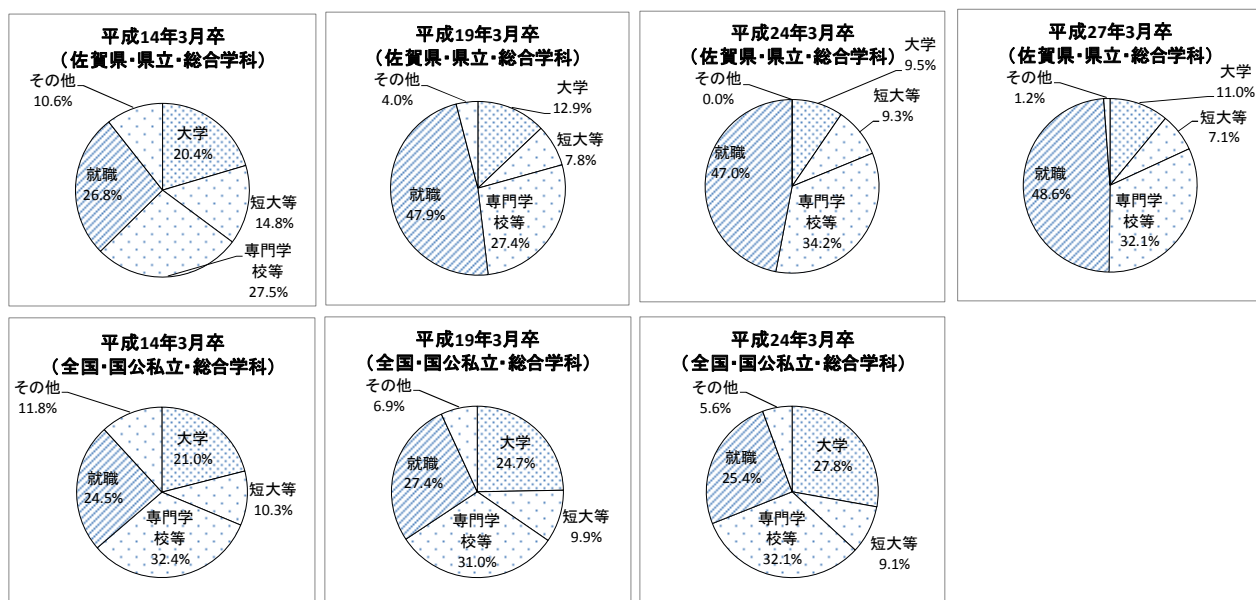
### 【嬉野高校卒業後の進路状況】



### 【参考 本県及び全国の総合学科卒業後の状況】

上段：佐賀県・県立・総合学科

下段：全国・国公立・総合学科



#### < 主な進学先 >

(国公立) 佐賀大学、熊本大学、長崎県立大学

(私立) 西九州大学、福岡大学、九州共立大学

(短期大学) 西九州短大、佐賀女子短大

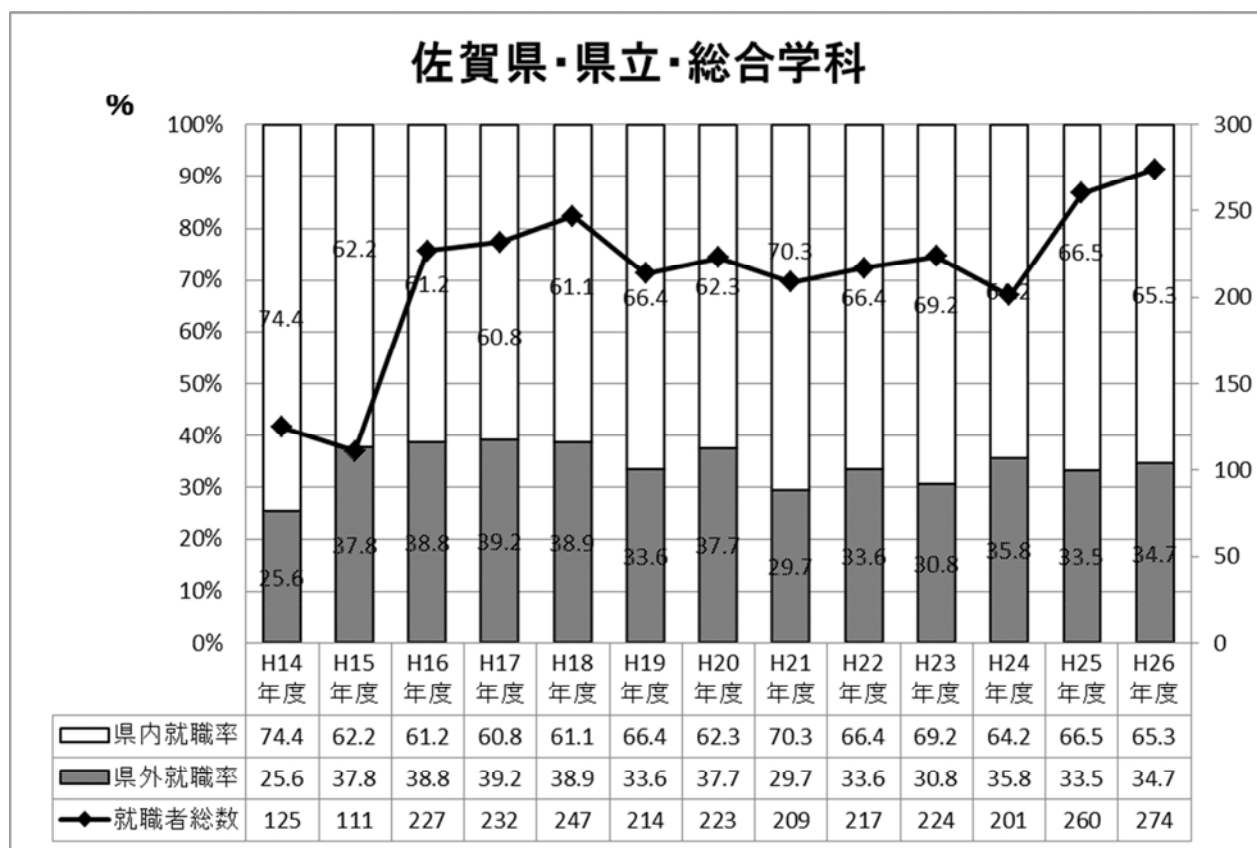
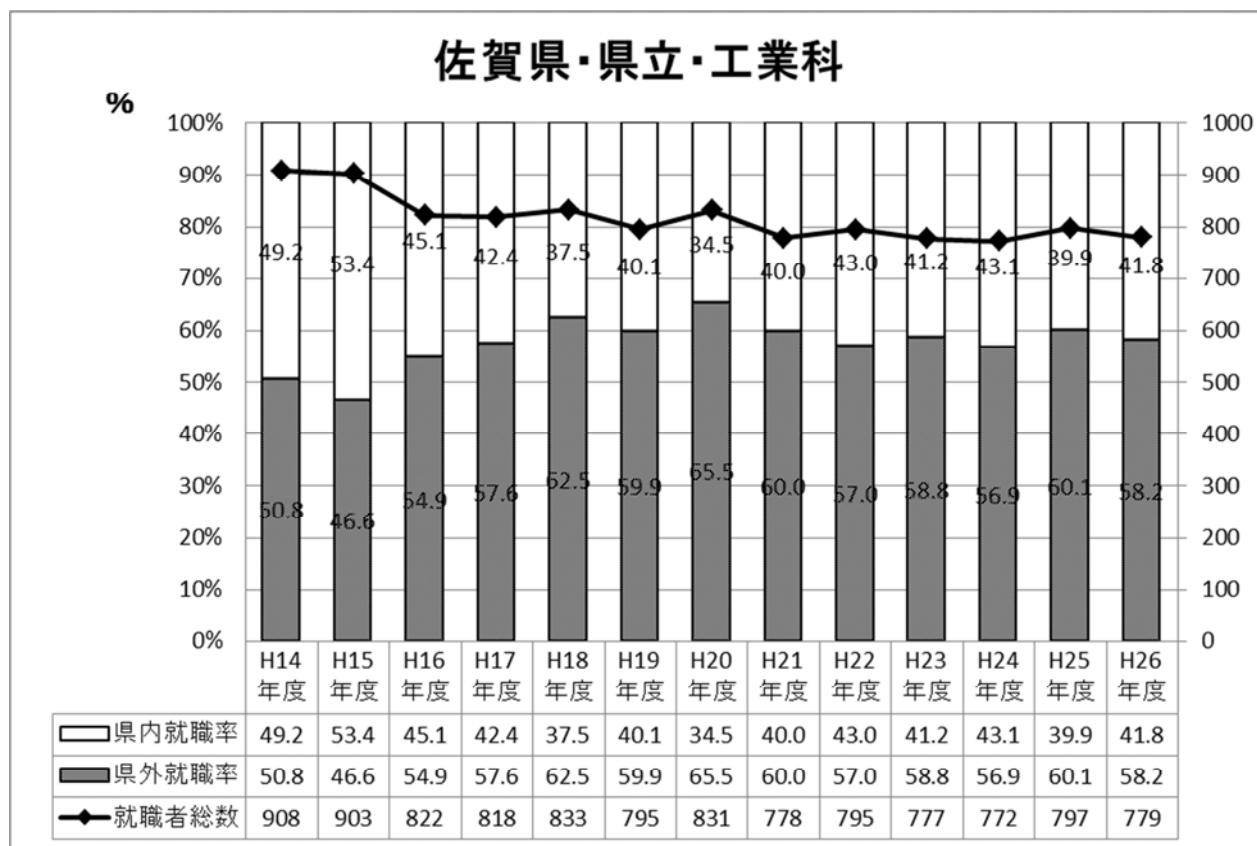
(専修学校等) 九州国際ビジネス専門学校、トヨタ名古屋自動車大学校、福岡美容専門学校、麻生リハビリテーション大学校、久留米リハビリテーション学院、長崎リハビリテーション学院、武雄看護リハビリテーション学校、緑生館

#### < 主な就職先 >

佐賀西信用組合、祐徳薬品工業、祐徳稲荷神社、和多屋別荘、ホテル華翠苑、肥前通運、祐徳自動車、タケックス、佐賀セロリ、佐賀シール工業、村岡屋、友朋会嬉野温泉病院、白石共立病院、社会福祉法人済昭園、すみれ園、Aコープ佐賀、山崎製パン、東京急行電鉄、東京エアポートレストラン、エスラインギフ、札幌かに本家、美々卵、セラミックセンサ、マツダ、イズミ、昭和金属工業、JR九州、にしけい、長崎キヤノン、陸上自衛隊、航空自衛隊

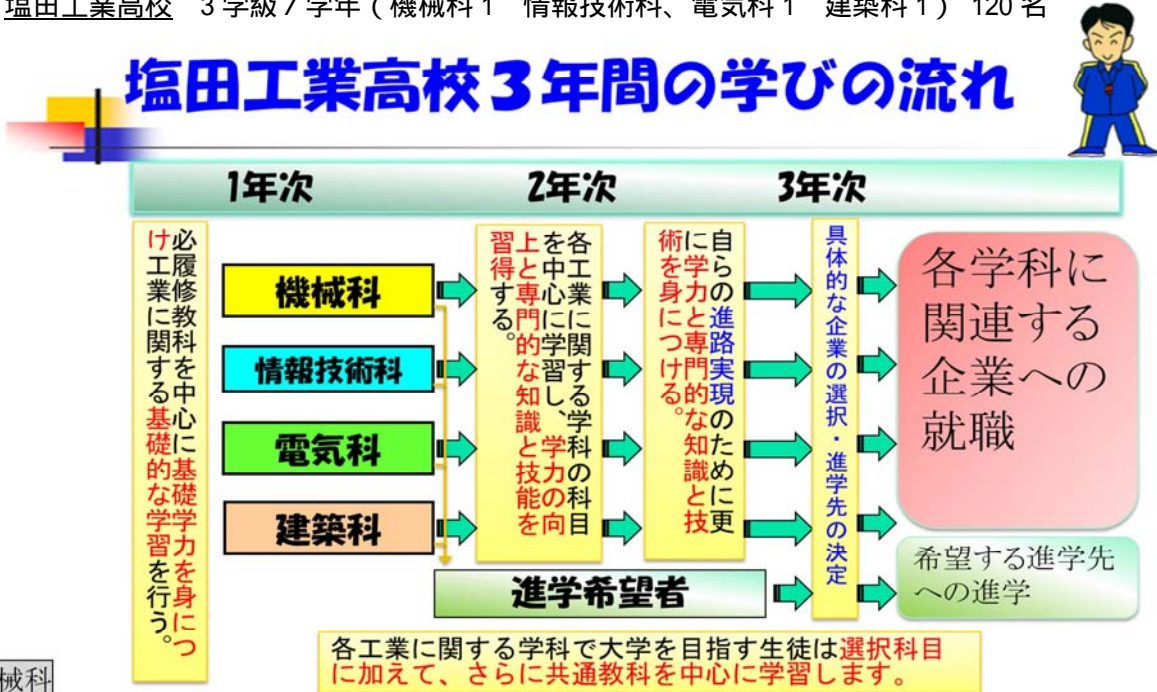
参考

【本県 全日制課程 県立高校 工業科及び総合学科の県外・県内就職状況】



資料4 新高校の学科構成について

- 1 新実施計画（第1次）における新高校の学科についての基本的な考え方  
「現在の学科を基本として、地域の意見も聞きながら検討する。」こととしている。
- 2 現在の学科構成について  
塩田工業高校 3学級/学年（機械科1 情報技術科、電気科1 建築科1）120名



機械科

“ 実践重視のものづくり ”

あらゆる産業の基礎となる機械技術。機械科ではものづくりに必要な設計技術や加工技術を学習します。

履修科目（工業専門科目）

- （1年次）工業技術基礎、製図、情報技術基礎、機械設計
  - （2年次）実習、製図、機械設計、機械工作、原動機、電気基礎
  - （3年次）課題研究、実習、製図、機械設計、原動機 機械工作、原動機、自動車工学
- は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

情報技術科

“ つくる・つたえる・つながる ”

コンピュータは、私たちの生活に欠かせないものになっています。情報技術科では単に「使う」技術を学ぶのではなく、コンピュータやネットワークを「作る」技術を学習します。

平成2年に新設

履修科目（工業専門科目）

- （1年次）工業技術基礎、情報技術基礎、電気基礎
  - （2年次）実習、電気基礎、アプリケーション技術実習（学校設定科目）  
電子回路、通信技術、プログラミング技術
  - （3年次）課題研究、実習、製図、プログラミング技術、コンピュータシステム技術、  
コンピュータ応用実習（学校設定科目）
- は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

## 電気科

“ 人々の生活を支える電気 ”

電気は現代社会を支える必要不可欠な技術です。電気科では、基本的な学習から電気エネルギーの供給や利用など、技術者としての幅広い学習をします。

履修科目（工業専門科目）

（1年次）工業技術基礎、情報技術基礎、電気基礎

（2年次）実習、電気基礎、アプリケーション技術実習（学校設定科目）

電子機器、電子技術、通信技術

（3年次）課題研究、実習、製図、電力技術、電子計測制御

は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

## 建築科

“ 夢と満足の居住デザイン ”

建築物に必要なことは、快適に生活できること、地震や台風、火災、腐食に強いことです。建築科ではこれらを満たす建築物を計画、設計、施工（工事）、使用までの過程を学習します。

履修科目（工業専門科目）

（1年次）工業技術基礎、製図、情報技術基礎、建築構造

（2年次）実習、製図、建築施工、建築構造、建築構造設計、建築法規

（3年次）課題研究、実習、製図、建築計画、建築構造設計、建築施工、建築法規

は選択科目・・・各学科の選択科目、共通選択科目の中から選択可能

## < 全学科共通選択科目 >

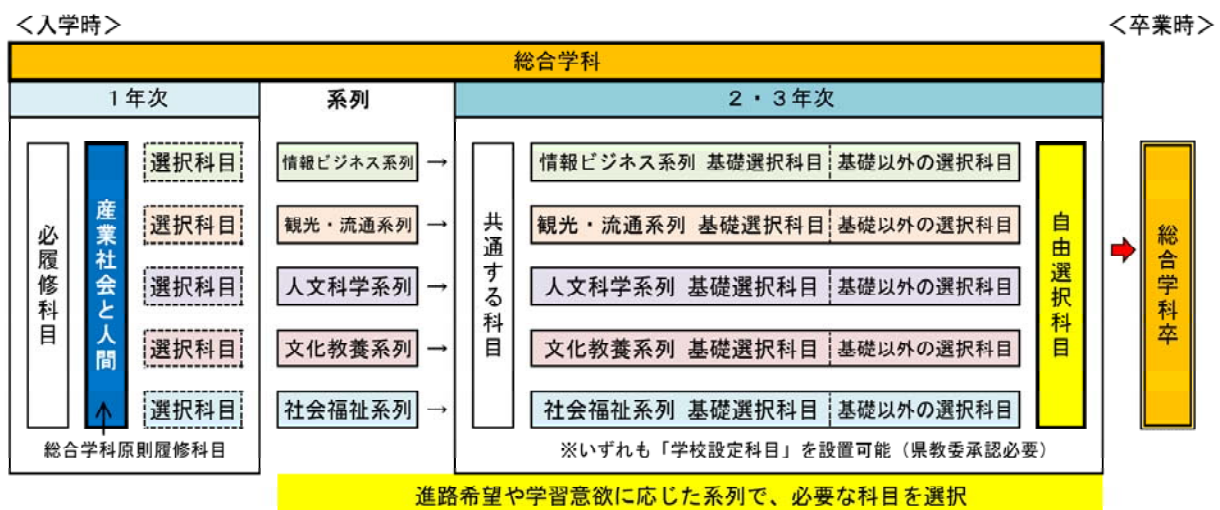
（2年次）子どもの発達と保育（家庭科専門科目）、情報メディアデザイン（美術専門科目）

【学校設定科目】漢字の世界（国語）身近な化学物質とその性質（理科）

（3年次）生活と福祉（家庭科専門科目）、フードデザイン（家庭科専門科目）、絵画（美術専門科目）

【学校設定科目】現代史（地歴科）

嬉野高校 3学級 / 学年（総合学科3） 120名



※社会福祉系列希望者は、1年次に福祉科目の選択をする。



総合学科

必修科目一覧

< 1 年次 > 国語総合、世界史 A、数学、数学 A、科学と人間生活、体育、保健、美術 / 書道、英語表現、コミュニケーション英語、家庭基礎、社会と情報、産業社会と人間

< 2 年次 > 国語総合、現代社会、生物基礎、体育、保健

< 3 年次 > 日本史 A / 地理 A / 政治・経済、体育

選択科目一覧

系列名	科目群の特色	総合選択科目				自由選択科目	
		基礎科目		基礎以外の科目		教科	科目
		教科	科目	教科	科目		
情報ビジネス	商業の科目や情報に関する基礎的基本的な知識と技術を習得し、高度情報化社会に貢献できる人材を育成する。	国語	国語表現	商業	電子商取引 マーケティング 商品開発 財務会計 I 原価計算 ビジネス計算※	国語	古典基礎※
		数学	総合数学※			公民	政治・経済
		外国語	コミュニケーション英語 II				
		商業	簿記 情報処理 ビジネス情報				
観光・流通	販売・サービスの基礎的基本的な知識と技能を習得し、サービス産業に貢献できる能力と態度を養う。観光についての知識理解を深める。	国語	国語表現	商業	簿記 商品開発 広告と販売促進 情報処理 ビジネス情報	外国語	中国語入門※
		数学	総合数学※			商業	ビジネス基礎 コンピュータグラフィックス※
		外国語	コミュニケーション英語 II				
		商業	観光一般※ 観光ビジネス実践※ 観光地理※				
人文科学	普通教科・科目を中心に学習し、現代社会に適応できる基本的な知識を習得する。四年制大学や短期大学、高等看護学校に進学を希望する生徒が対象となる。	国語	古典 B 現代文 B	地理歴史	日本史 B 地理 B	福祉	社会福祉基礎 福祉一般※
		数学	数学 II 数学 B 総合数学※	理科	生物		
		外国語	コミュニケーション英語 II 英語表現 II				
文化教養	食物・被服・保育・語学など幅広い知識と技能を習得する。社会人としての必要な資質・教養を養成し、豊かな人間性を育てる。	国語	国語表現	国語	実践国語※		
		数学	総合数学※	芸術	美術 II 書道 II		
		外国語	コミュニケーション英語 II	外国語	中国語 I ※ 中国語 II ※		
		家庭	子どもの発達と保育 ファッション造形基礎 フードデザイン	英語	英語理解 時事英語		
社会福祉	福祉に関する基礎的基本的な知識と技術の理解を深め、将来、地域社会において福祉活動の推進に寄与する能力と態度を養う。	国語	国語表現	福祉	介護過程 介護総合演習 介護実習 こころとからだの理解		
		数学	総合数学※				
		福祉	社会福祉基礎 介護福祉基礎 コミュニケーション技術 生活支援技術	英語	英語理解		

注1 ※は学校設定科目である。

注2 教科「家庭」は主として専門学科において開設される教科である。

注3 教科「英語」は主として専門学科において開設される教科である。

### 3 新高校の学科構成について

<現在の学科を基本とした再編後の学科組み合わせパターン>

	学 科		平成30年度【5学級】		平成31年度または平成32年度【4学級】	
	大学科	小学科	学級数	備 考	学級数	備 考
パターン1	工業科	機械科	1	現行のまま	→ 2	小学科については、 ①〔機械科1〕+〔情報技術科電気科、建築科1〕 ②〔機械科1〕+〔情報技術科、電気科1〕 ③〔機械科1〕+〔建築科1〕 などが考えられる。
		情報技術科	1			
電気科		1				
		建築科	1			
	総合学科		2	系列の整理(系列数減)が必要になることが考えられる。(5系列→4または3系列)	→ 2	平成30年度と同じ
パターン2	工業科	※備考欄参照	2	小学科については、 ①〔機械科1〕+〔情報技術科電気科、建築科1〕 ②〔機械科1〕+〔情報技術科、電気科1〕 ③〔機械科1〕+〔建築科1〕 などが考えられる。	→ 2	平成30年度と同じ
			総合学科	3	現行のまま	→ 2
パターン3	総合学科		5	系列については、 ①現在の5系列+工業系列 ②現在の5系列の整理(系列数減)+工業系列 などが考えられる。	→ 4	平成30年度時点での系列について整理(系列数減)が必要になることが考えられる。

<メリットとデメリット(4学級時点)> ○メリット ●デメリット

パターン1 パターン2	○現在の学科を引き継ぐことができる。 ○工業科は1年次から専門学科の教育ができる。 ●現行と同じ学科構成となるので新しい学校としてのプラスイメージが打ち出しづらい。 ●建築科をなくすと、旧西部地区の工業科から建築を学べる学校がなくなる。
パターン3	○新しい学校というイメージを創りやすい。 ○「産業社会と人間」を通じて、各系列の内容をある程度理解した後に系列を選択することができる。 ●学科・系列構成が変わるため、中学生や地元で教育内容を理解してもらうのに時間がかかる。 ●1年次には「産業社会と人間」の授業を受けるため、工業系列の生徒も専門教育に入るのが遅れる。

#### 【参考】総合学科における学級数と系列数の相関関係

		系列数									計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
学級数	1		5	1	1						7
	2		1	17	11	4					33
	3			10	29	11	2				52
	4			2	15	28	11	3	1		60
	5	1		1	3	25	11	4	1		46
	6			2	8	16	25	12	3	1	67
	7				1	9	7	3	3		23
	8			1		1	1	2	1	1	7
計		1	6	34	68	94	57	24	9	2	295

対象は総合学科を持つ全国の  
公立高等学校で平成27年度  
入学生に対する状況である。

(富山県教委資料により作成)

## 【参考資料】

### 1 背景としての国の動き

文部科学省から平成 26 年 6 月に出された「初等中等教育分科会高等学校教育部会 審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向けて～」では、高等学校を「進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関」とし、高校教育の質の確保・向上に関する課題・基本的考え方として、「高校教育としての共通性を確保するとともに、多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応が必要」としている。

「共通性の確保」については、全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を図るとともに、高等学校では、

- ・ 社会・職業への円滑な移行に必要な力
  - ・ 市民性（市民社会に関する知識理解、社会の一員として参画し貢献する意識など）
- も重視していくべきとしている。

また、「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」については、

<各学科における課題と対応>として、

- ・ 普通科（進路意識の向上や、キャリア・職業教育など学校から社会への円滑な移行推進）
- ・ 専門学科（社会のニーズに応じた実践的な職業教育推進、高等教育との接続・連携）
- ・ 総合学科（中学校教職員・保護者の認知度向上）

<経済社会の変化等への対応>として、

- ・ キャリア教育・職業教育の一層の推進（職業観・勤労観を確立するための取組推進）
- ・ 優れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供（ハイレベルな学習機会や切磋琢磨する場の提供）
- ・ グローバル人材の育成（豊かな語学力・コミュニケーション能力等を身に付けた人材の育成）
- ・ ICT 教育の推進（質の高い学びを実現するための効果的な授業の在り方の検討）

等としている。

また、次のような事業も実施されている。

#### ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業

将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援している。本県では、致遠館高校が平成 18 年度より指定を受けている。

#### ・ スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業

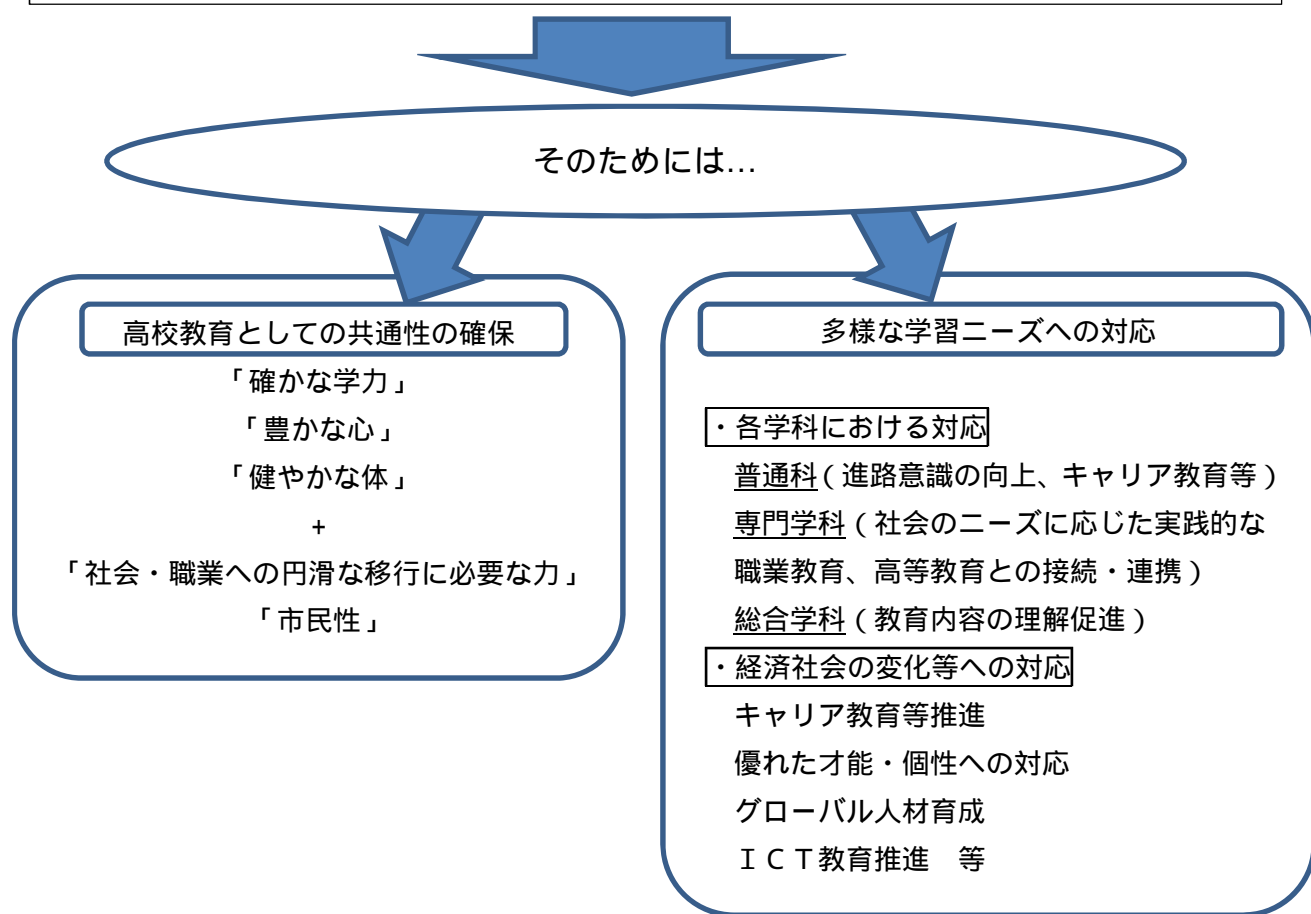
高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図るとしている。

・ スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）事業

全国の高等学校から高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人を育成するため、専攻科を含めた5年一貫のカリキュラムの研究や大学・研究機関等との連携など先進的な卓越した取組を行う専門高校（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の8学科）を指定している。

高等学校の位置付け

進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校卒業後のほぼ全ての者が、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けるとともに、自立に向けた準備期間を提供することのできる最後の教育機関



国で実施されている事業の例

- ・SSH事業（将来の国際的な科学技術関係人材育成）
- ・SGH事業（将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成）
- ・SPH事業（高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人を育成）

## 2 近年の本県の学科在り方に係る検討

### 高校教育改革プロジェクト会議における検討

- ・ 平成 23 年度 普通科に係る検討（大学受験力及び学力向上対策についての検討）
- ・ 平成 23、24 年度 専門学科・総合学科に係る検討  
（人材育成に対する企業ニーズ把握のための懇話会実施、学力向上対策についての検討）
- ・ 平成 25 年度 キャリア教育に係る検討
- ・ 平成 26 年度 専門学科の在り方検討（中心的な役割を果たす学校や専攻科についての検討）

本年度は、普通科を含む「学科の在り方ワーキンググループ会議」を開催しており、生徒減少期における学科の在り方について検討を行う予定である。

### 3 全国的な取組の例

#### < 普通科等 >

ハイレベルな学習機会や場の提供を行う普通系専門学科を設置  
(理数系) 理数、数理科学、応用数理、サイエンスリサーチ、メディカル・サイエンス  
(文理総合型) 京都こすもす(人文社会系統、国際文化系統、自然科学系統)  
(語学重視型) 国際文化、国際教養、国際コミュニケーション、国際文化情報  
(芸術スポーツ系) 芸術、芸能文化、体育、スポーツ健康科学  
グローバル人材の育成  
スーパーグローバルハイスクール(SGH)事業(再掲)  
国際バカロレア(日本語ディプロマ)認定

#### < 専門学科 >

社会のニーズに応じた実践的な職業教育  
SPH指定校の取組を例として紹介する。

#### 【農業】福岡県立福岡農業高校

都市園芸に関する専門的な技術及び技能と経営感覚を身につけたアグリスペシャリストの育成

- ・ 大学や農業研究センターと連携し、先端技術を導入した栽培実験・実習により栽培管理技術を向上させる。
- ・ 農業生産法人及び農業関連企業において経営的な視点や自立した農業経営に必要な経営方法を学ぶ。
- ・ 「食の6次産業化プロデューサー」の内容を学習し、栽培技術の向上だけでなく生産物の付加価値を高める企画や広報の在り方を研究する。
- ・ 産業現場で必要な資格を有し、活用できる人材を育成する。

#### 【工業】千葉県立千葉工業高校

社会や地域のニーズを踏まえ、産学官連携のもとに、高度な科学技術に対応した科学的思考力を有し、モノづくりを通じて課題を解決する工学的センスとグローバルに活躍できる生徒を育てるプログラムの開発

- ・ 応用力と工学的センスを有し、工業に関する諸課題をグローバルな視点からも考えることができる生徒の育成を目指して、下記対応策を実践し、その効果を検証する。
  - 1 高度な科学技術に対応できる力と自発力の育成
  - 2 クロスカリキュラムを活用した効率的な学習カリキュラムの編成と反転授業の実践から、思考力・判断力・表現力の育成
  - 3 大学、企業と連携した高度先進科学・技術の学習を通して、「ものづくりの心」や「工学的センス」の育成
  - 4 外国人博士研究員(Post Doctor)や修士学生等の協力により、グローバルな視点を身に付けさせる教育の推進
  - 5 「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」を活用したインターンシップを実施することで、より生徒の目的意識、職業観、勤労観を育成

#### 【商業】徳島県立徳島商業高校

##### Deep in Tokushima ~徳商版「地域創生」人材育成プロジェクト~

- ・ 地域コンサルタントの育成（地域のことをよく知り、様々な課題に対して柔軟に対応できる人材の育成）
- ・ 観光ガイド・商品開発力を持った人材の育成（地域の魅力を創出し、プロデュースできる人材の育成）
- ・ Glocal プロデューサーの育成（地域の魅力を世界に向けて発信できる能力を有し、人と人、企業と企業のネットワークを構築することができるグローバルなプロデューサーの資質を持つ人材の育成）

#### 【家庭】岐阜県立大垣桜高校

##### CHANGE SAKURA ~技と心で羽ばたけ グローバルクリエイター育成プロジェクト~

###### [服飾デザイン科]

グローバルな視野から服飾に関わるものづくりやビジネスを取り上げ、総合的にファッションを世界に発信していくことができるファッションビジネスリーダーやグローバルファッションクリエイターを育成する。

- ・ 地元の繊維関連企業が有する高度な技術力、デザイン力を習得
- ・ 企業と連携しオリジナルテキスタイルを制作し、オリジナルデザインの洋服の提案・商品化、ブランド化
- ・ 国内外のファッション関連学校と連携し、最先端のファッション動向を把握

###### [食物科]

食文化の伝承や、よりよい暮らしを支え、健康的な「食」の企画・提案を行うなどの実践的な活動を通して、地域の食文化の発展に寄与するフードクリエイターを育成する。

- ・ 産学官の関係機関と連携して食のニーズを調査・分析し、地域農産物の特徴を生かしたオリジナルレシピや、商品・サービスの開発、食生活の改善等の提案
- ・ 食産業界で活躍している専門家を招聘し、講演会や講習会を開催、産業現場実習を実施

## 新高校設置準備委員会設置要領

平成14年10月21日  
佐賀県教育委員会教育長決定  
一部改正 平成17年4月 1日  
一部改正 平成18年7月12日  
一部改正 平成21年4月 1日  
一部改正 平成27年4月 1日

## (設置)

- 第1条 佐賀県立高等学校再編整備実施計画に定める再編等によって設置される高校(以下「新高校」という。)の具体的な在り方等を検討するために、県立高等学校再編整備推進本部設置要綱第7条の規定に基づき、新高校設置準備委員会(以下「委員会」という。)を設置する。
- 2 委員会は、新高校ごとに別表のとおり設置する。

## (所掌事項)

- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる具体的な検討を行う。
- 一 新高校の教育内容及び管理運営等に関すること
  - 二 新高校の施設・設備に関すること
  - 三 新高校への円滑な移行に関すること
  - 四 前号に掲げるもののほか、検討を要すること

## (組織)

- 第3条 委員会の委員は、再編等整備の対象となる学校(以下「再編等対象校」という。)の校長、教職員、県教育委員会事務局関係者及び地域関係者のうちから教育長が委嘱する。
- 2 委員会には委員長及び副委員長を置き、再編等対象校関係委員の中から教育長が指名する。
  - 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代理する。
  - 4 委員長は、必要と認めるときは、委員会に作業部会を設置することができる。

## (会議)

- 第4条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。
- 2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に委員会への出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

## (事務局)

- 第5条 委員会の事務局は、委員長が所属する学校及び県立高校再編整備推進室に置く。

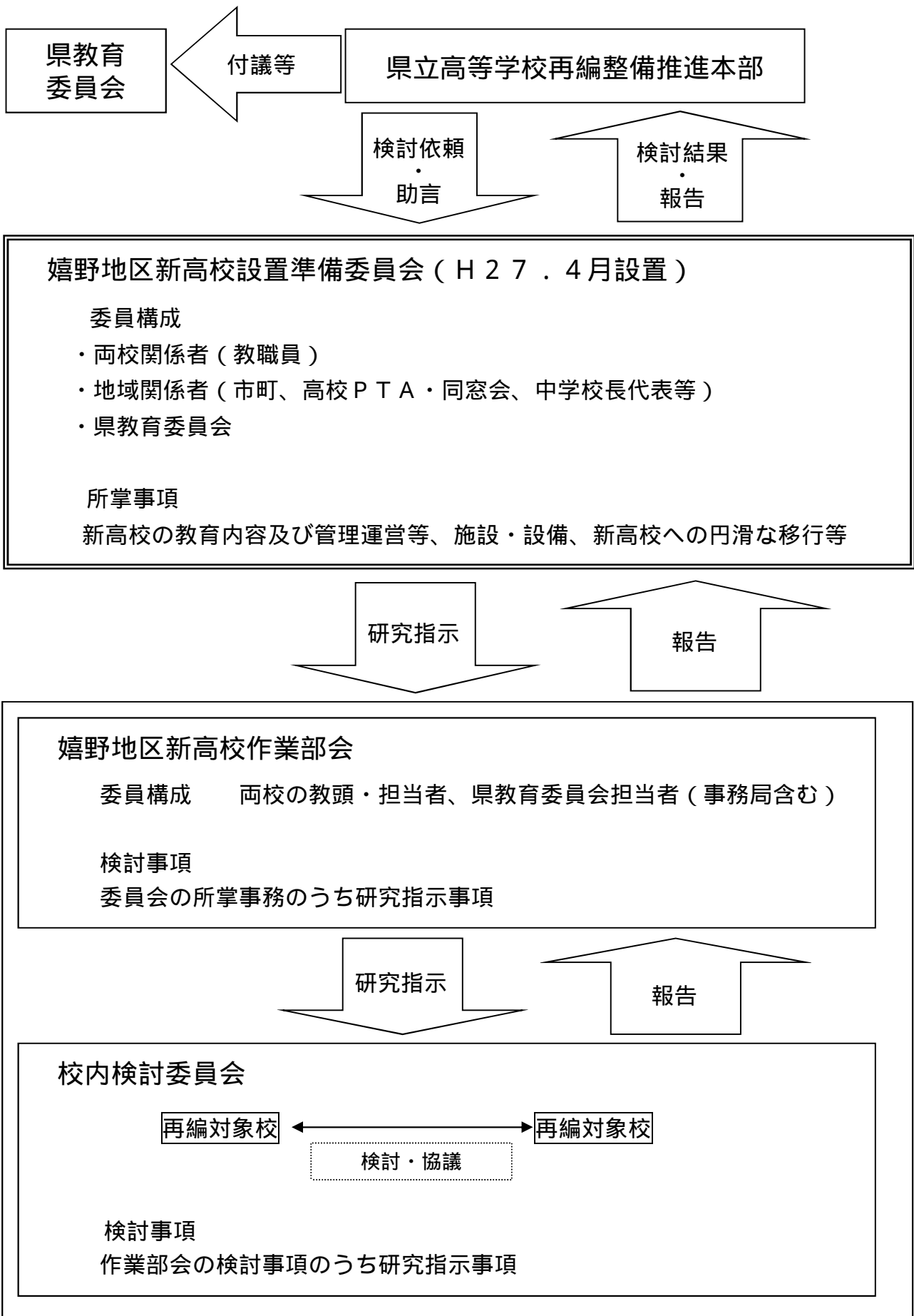
## (補足)

- 第6条 この要領に定めるもののほか、委員会及び作業部会の運営に必要な事項は委員長が委員会に諮って定める。



別表（第1条関係）

委員会名	再編等対象校
伊万里地区新高校 設置準備委員会	伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校
杵島地区新高校 設置準備委員会	白石高等学校、杵島商業高等学校
新巖木高校 設置準備委員会	巖木高等学校
鹿島地区新高校 設置準備委員会	鹿島高等学校、鹿島実業高等学校
嬉野地区新高校 設置準備委員会	塩田工業高等学校、嬉野高等学校



資料7 嬉野地区新高校設置準備委員会委員構成

No.	所属・職名	氏名	備考			
1	塩田工業高等学校 校長	藤井 伸幸	委員長・学校関係者			
2	嬉野高等学校 校長	峰松 藤一郎	副委員長・学校関係者			
3	塩田工業高等学校 教頭	津川 久博	学校関係者			
4	嬉野高等学校 教頭	池田 豊昭				
5	嬉野市教育長	杉崎 士郎	嬉野市	市関係者		
6	嬉野市副市長	中島 庸二				
7	武雄市教育長	浦郷 究	武雄市	市関係者		
8	鹿島市教育長	江島 秀隆	鹿島市			
9	塩田工業高等学校 同窓会代表	西村 利則	地元関係者			
10	嬉野高等学校 同窓会代表	平野 國廣				
11	塩田工業高等学校 P T A代表	石橋 蔵人				
12	嬉野高等学校 P T A代表	太田 和章				
13	嬉野市立塩田中学校長	永田 由美	中学校関係者			
14	嬉野市立嬉野中学校長	陣内 弘文				
15	副教育長（教育情報課長）	福田 孝義	県教委関係者			
16	教育政策課長	八谷 幸浩				
17	教職員課長	福地 昌平				
18	学校教育課長	松尾 敏実				
19	保健体育室長	三上 智一				
20	教育支援課長	源五郎丸 靖				
21	県立高校再編整備推進室長	甲斐 照章				
22	県立高校再編整備推進室 教育企画監	岩村 彰				
事務局	塩田工業高等学校教諭	見浦 浩徳				
	嬉野高等学校教諭	梶原 理世				
		滑川 喜生				
	県立高校再編整備推進室 企画主幹	上赤 真澄				
県立高校再編整備推進室 企画主査	杉本 耕一郎					